

## 記録的な渇水 稲作期を乗り切る ～白川ダムからの補給と利水者の工夫で～

- 白川ダムでは、昭和56年完成以来の記録的な渇水となりました。
- 白川ダムからの補給と利水者の効率的な水利用により、置賜白川の河川環境の保持（※1瀬切れ防止等）に努めたとともに、かんがい用水需要期（9月8日まで）を乗り切りました。
- 引き続き、置賜白川の流況等について監視するとともに、計画的なダム運用を行い貯水位の回復に努めます。

※1 瀬切れとは、川の流れが途中で途切れてしまう現象で魚類等の生息に大きな影響を与えます。

### 【白川ダム現状】

- ・ 白川ダムの9月10日9時現在状況は次のとおりです。

貯水位標高 314.72m（最低水位標高 312m）  
貯水率 20.6%

### 【今年の渇水状況】

- ・ 昭和56年に管理を開始してから過去最大の渇水が発生。

### 【節水取り組み状況】

- ・ かんがい用水

※2 間断かん水（番水）を実施しました。

節水（8/24から取水量の15%節水、9/1から水利権量の20%節水）

※2 水が不足する時のかんがいのやり方で、地区を区分して順番で限られた日だけ取水する方法です。

### 【効果】

- ・ かんがい用水

※3 補給日数：51日（7/20～9/8）、補給量：964万m<sup>3</sup>

飯豊町・川西町・長井市の米の収穫高（平年約22万俵、13,000t）

- ・ 河川環境保持（瀬切れ防止等）

※3 補給日数：51日（7/20～9/8）

※3 流入量がダム補給量を継続的に下回った期間。

### 【発表記者会：山形県政記者クラブ】

#### 問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所  
山形県西村山郡西川町大字砂子関158  
副所長（技術担当） 荒木 勝彦（内線204）  
管理課長 三原 金吾（内線331）  
電話 0237-75-2311（代表）

## 1. 平成24年8月 白川ダム渇水状況について

昭和56年に管理を開始してから過去最大の渇水が発生

- ・ 7～8月の降雨量が過去最低。

(H24 : 256mm/2ヶ月、平年 : 450mm/2ヶ月、平年比 : 約57%)

- ・ 8月の真夏日日数が過去第3位。

(H24 : 21日/月、平年 : 11日/月、平年の1.9倍)

- ・ 8月のダムへの総流入量が過去最低。

(H24 : 7,557千m<sup>3</sup>/月、平年 : 29,733千m<sup>3</sup>/月、平年比約25%)

- ・ ダムの貯水位が過去最低。

(H24 : 標高313.69m・貯水容量122万m<sup>3</sup>・貯水率12.4%)

(H6 : 標高315.04m・貯水容量283万m<sup>3</sup>・貯水率28.8%)

(H6 : これまでの最低)

(これまでの最低より、

標高 -1.35m・貯水容量 -161万m<sup>3</sup>・貯水率約43%)



(H24.9.4 貯水池状況)

## 2. 白川ダム渇水対策に向けた取り組み

- ・ 第1段（8月17日）  
「水利用に極力支障を生じないように農業用水の節水開始」
- ・ 第2段（8月22日）  
最上川水系渇水情報連絡協議会（幹事会）開催  
「さらなる節水の要請」
- ・ 第3段（8月24日）  
白川ダム利水調整会議開催  
「かんがい供給区域の利用者による取水量の15%節水決定」
- ・ 第4段（8月30日）  
白川ダム利水調整会議開催  
「ダム水位引き続き低下 かんがい期まで水利権量の20%節水を決定」

## 3. 渇水を乗り越える為の水利用調整

- ① 厳しい条件下で効率的なダム運用を実施しました。
  - ・ 過去最大の渇水の中、ダムの貯水量確保と効率的な水利用により補給量の調整を行いました。
  - ・ 最低水位以上の容量で計画的にダム運用を行い、厳しい条件下を乗り越えました。
  - ・ 河川環境に必要な流量を確保し、生態系の保全に努めました。
- ② 農家の皆さんの取り組み
  - ・ かんがい期を乗り越える為に、間断かん水（番水）を実施し、節水に努力しました。  
(8/24 から取水量の15%節水、9/1 から水利権量の20%節水)

## 4. ダムの補給量調整における効果

### ①米の収穫高の確保

- ・ 今回の水利用調整により、飯豊町・川西町・長井市の1市2町にまたがる県南部有数の穀倉地帯である当地域の米の品質及び収穫高（平年約22万俵、13,000 t）の確保に努めました。

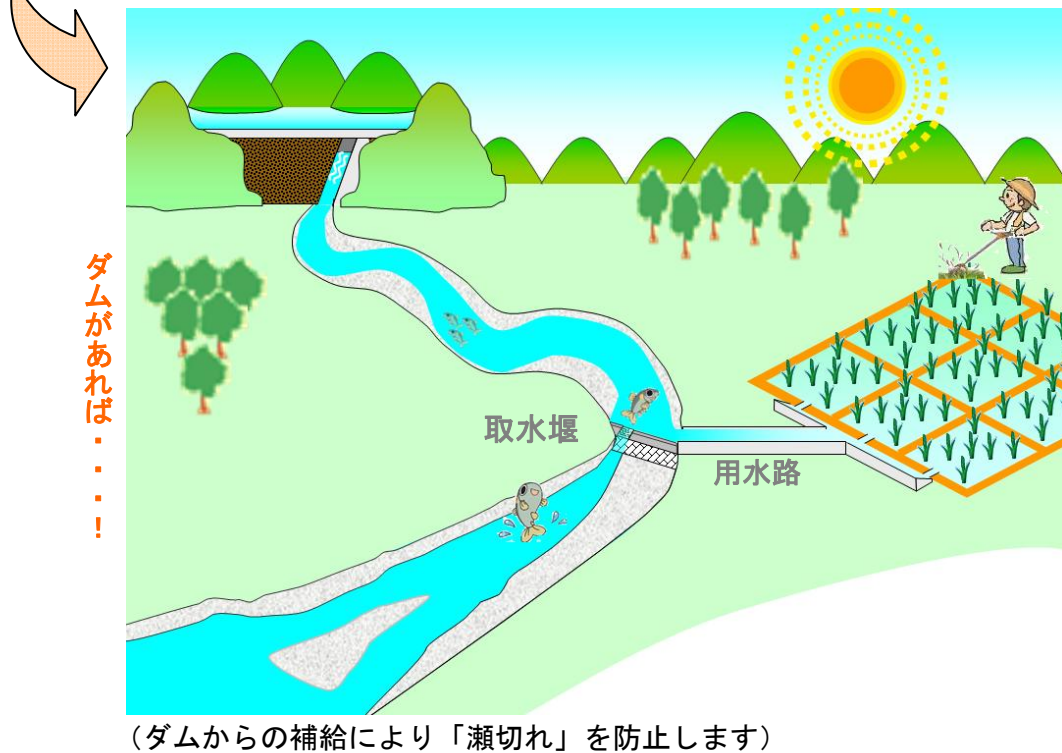
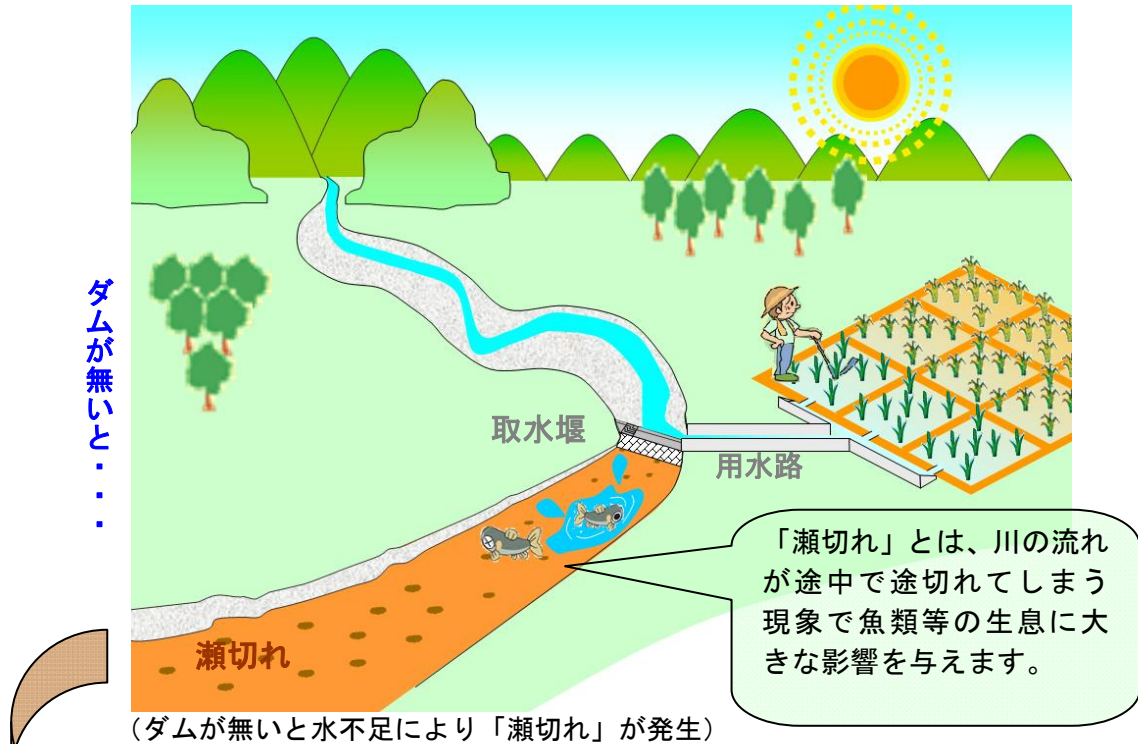


(登熟期を迎えた稲の状況)

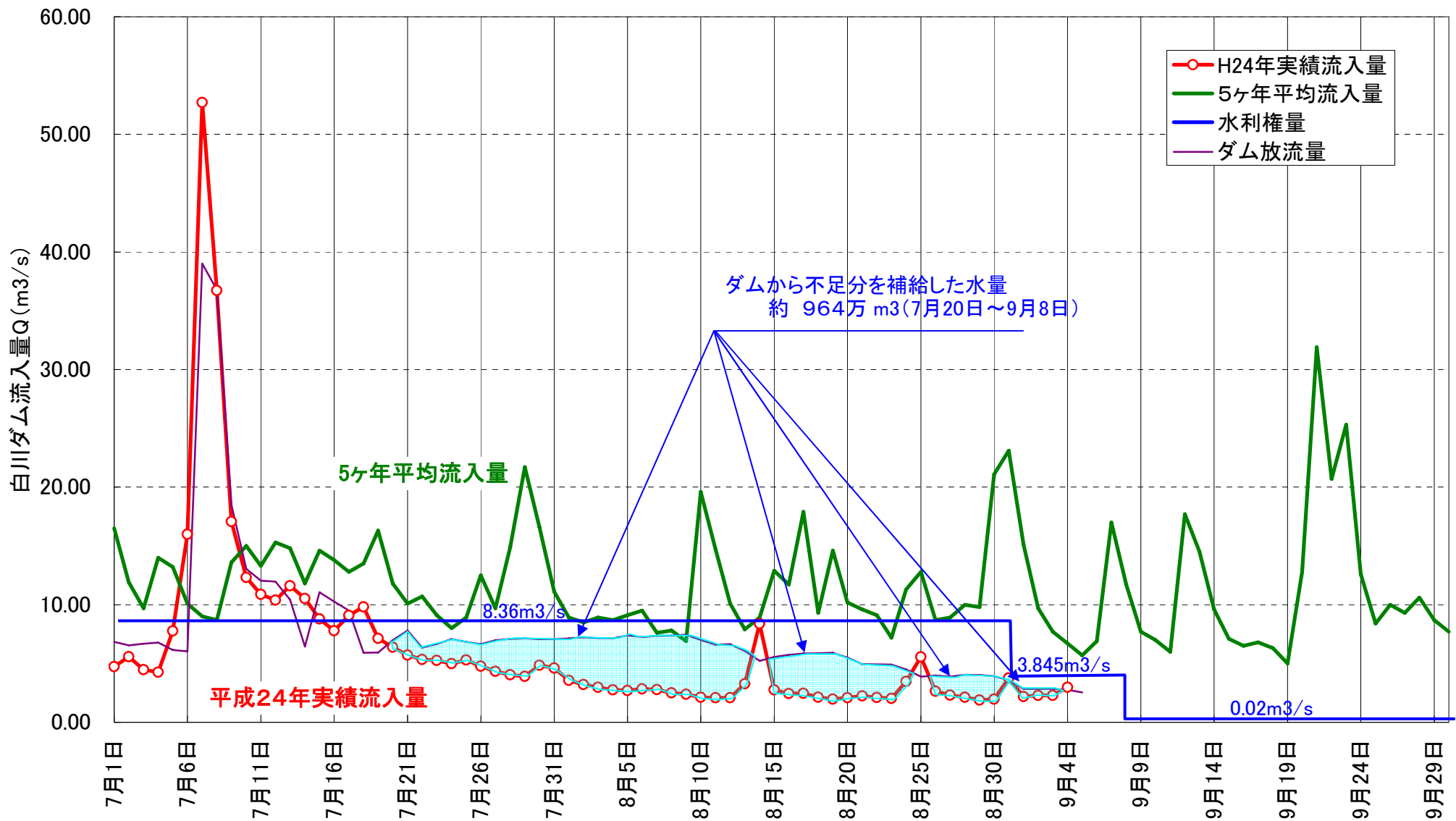


## ②河川環境の保持

- 「瀬切れ」防止への取り組み。  
渇水により川の流が途中で途切れる事により置賜白川に棲む魚類等水性生物へ悪影響を及ぼします。  
今回、白川ダムからの放流により「瀬切れ」を防止しました。



# 白川ダム流入量状況( 7月～9月 日平均)



# 白川ダム年間貯水位曲線

有効貯水容量 41,000,000m<sup>3</sup>

